

10・19 中央集会

「医師・看護師・介護士を増やして 安全・安心の医療、介護を」



宮城からは60名が参加（日比谷公会堂前）

厚生協会だより

2008年11月21日
第 292 号

発行
(財)宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：長 澤 清 光

10月19日(日)日比谷公会堂に全国から5000名を超える参加者が集い「STOPP! 医療介護崩壊、増やせ社会保障費10・19中央集会」が開催されました。

公会堂の中は瞬く間に満席になり、外にはオーロラビジョンが設置され東京や関東甲信越からの参加者はビニールシートを敷くなどして中外一体になり集会は開会しました。

高らかに シュプレヒコール

主催者を代表して日本医師連の田中千恵子委員長があいさつし、「医療現場や患者の大変な状況を多くの国民に訴えながら運動し世論を揚げ政治を動かすにつつあることに確信を持ち、今後さらに安心できる医療や介護の実現をめざしともに奮闘しましょう。」と述べました。連帯あいさつ、各地・各団体からのリレー発言があり、弘前の健生病院の医師からは、昼食を摂るのが夜の9時半になってしまつという医師不足しわ寄せの中での過密長時間労働の実態が訴えられました。コント「ザ・ニュース

ペーパー」の麻生、小泉、福田の現元首相の風刺の効いた国民いじめの「本音トーク」に大爆笑の場面もありました。集会後、休日でも多くの人が行きかう銀座をパレードし高らかにシュプレヒコールを響かせました。宮城からは団長の山田裕副理事長をはじめ60名が参加しました。

(編集事務局)

○山田裕団長のコメント

日比谷公会堂内外に全国から5000名の老若男女が集結した。内部はいすに座れず立つて参加する人もあり、外は東京関東勢が埋め尽くした。前「連合」会長の笹森氏が「立場の違いを乗り越えて団結すべき状況」と訴えがあったり、介護関係者から厳しい現実への改善の訴えがあり、途中「ニュースペーパー」の政治風刺の笑いがありと、内容豊富な集会となった。日比谷から東京駅まで街中のデモ行進で、「医療崩壊反対」を訴え、渋沢栄一の銅像前で本田先生たちと奮闘を誓った。

上半期(4～9月)

収支結果と下半期の課題

専務理事 長澤清光

職員の皆さんの奮闘により10月単月で50百万円の黒字を確保したことに感謝申し上げます。しかし予算に3百万円届かず、引き続き経営改善の努力をお願いします。

2008年度は、4月の診療報酬改定や後期高齢者医療制度に象徴される医療制度改革が行われ、経営を取り巻く外部環境が大きく様変わりしました。そのため今期は▲90百万円の当期赤字から出発せざるを得ませんでした。

一、上半期経営

到達の特徴

▲91百万円の経常赤字、
当期損益は▲1億10百
万円の赤字

08年度上半期の経常損益は▲91百万の赤字、当期損益は

▲1億10百万円余りの赤字となりました。第1四半期(4月～6月)の当期損益▲81百万円赤字に歯止めが掛からず、7月から9月の3ヶ月間で更に▲30百万円ほど赤字が発生しています。

予算目標に対して赤字は76百万円増加、前年同期実績に95百万円とどかず、08年度予算の年間当期損益▲90百万円を既に超過する厳しい到達となっています。

事業収益は、70億4百万円と予算に89百万円とどかず、前年実績から1億38百万円減少しました。医業収益も、予算に1億17百万円とどかず、前年実績から1億60百万円減少しました。内訳では入院収益で予算比▲71百万円、前年比▲1億19百万円。外来収益で予算比▲46百万円、前年比▲57百万円と予算目標、前年

実績からも大きく後退しています。

その要因に診療報酬改定の影響と、泉病院、古川民主病院の構造転換に向けた病床稼働減少が挙げられますが、特に医業収益が予算目標から大きく減少していることが、現在の経営状況を困難にしています。改善に向け、各病院・事業所の収益確保の取り組みを、予算計画の検証を含めて一歩ずつ積み上げることが必要であり、同時に減収傾向に対応する費用管理の強化徹底が欠かせません。一方、介護収益は28百万円の予算超過、前期比でも20百万円の収益増となりました。

事業費用は、予算対比で27百万円下回りました。要因は、材料費で予算を78百万円下回ったことで費用全体を圧縮した反映です。しかし、人

件費は予算を31百万円超過していることは重大です。

二、厚生協会の

損益構造

黒字にするために月
19百万円の増収必要

上半期の月平均収益は、11億67百万円で、材料費比率と固定費額から逆算した損益分岐点は、月収益は11億86百万円と、黒字にするためには月額19百万円の増収が必要です。

変動費(材料費)率は、前年実績より低下し黒字が作りやすい構造に変わっています。が、収益減少が大きく、赤字が続く結果になっています。人件費等の固定費が前期と比較して1億28百万円増加、固定費増加が収益確保につながらず、収益・費用のバランスをいっそう崩れています。

基本は、収益増加が経営改善の中心課題ですが、診療報酬改悪や事業転換が必要になる医療制度の下では、時間外勤務の削減と人員の効率的な配置の検討が急がれます。ま

た賃金・退職金制度の見直しも急ぐ課題です。

三、各病院・事業所の

状況、下半期に向けた対策

坂総合病院は、予算に見合う事業収益を確保しましたが、人件費の予算超過が大きく当期損益は予算を9百万円下回る10百万円の黒字に止まりました。事業収益は外来収益の前年割れが大きく、前年実績から21百万円減少しています。医師、看護、コメディカルなど組織力を活かした取り組みで、入院稼働目標と外来予算を上回ることが求められます。

長町病院は、入院、外来収益とも予算を下回りましたが、介護収益の伸びで事業収益予算に迫っています。一般病棟と回復期病棟の機能的連携が材料費の削減を生み、7百万円の黒字確保につながっています。10月以降の130床稼働が経営改善の重要なポイントになります。

古川民主病院は、10月以降



厚生協会全職責者会議
(11月14日 シルバーセンター)

の診療報酬改定に対応するため、2階病棟を8月から30床に押さえたことで、予算からは50万円事業収益が減少し、当期損益は予算から380万円後退する▲590万円赤字となりました。10月から稼働計画に見合う人員配置、12月からの2階病棟7・1看護配置による収入増、稼働を落とさず実行予算を確保することが必要です。

泉病院は、7月から回復期リハへの転換を進めました。その移行期の医療活動見直しの困難が入院患者数の予算未達成になって現れています。事業収益は予算を530万円下回り、当期損益は予算から550万円下回る▲810万円の赤字となりました。10月以降は稼働目標72床を安定的に確保する取り組みが、今後の経営改善につながる重要な対策になります。

各診療所は、昨年度と同様に赤字黒字の事業所が鮮明となっています。中新田民主医院、若林クリニックの患者増を中心とする黒字化対策が急がれます。歯科は、前期より収益を増やしましたが赤字が続いています。10月からの事業部制への移行によって、自立できる経営構造への転換対応が必要です。

厚生協会の下期予算の超過達成に向け、事業収益を増やすために、各病棟の病床利用率、平均在院日数、新入院等の管理目標を確認して対策を進めましょう。外来も午前・午後・夜間の診療開始時間を10分でも15分でも早め、患者受入れ枠を広げましょう。コメディカルの稼働引上げ等、稼働開始時間を早めましょう。職場の業務改善を進め、あと15分、30分と出勤時間を減らしましょう。2008年度の基金・協会債の募集・増加で1億円の目標突破に向けた全事業所のより一層の取り組みをお願いします。

【表-1】 上半期法人損益計算書

単位：百万円

科 目	累計実績	構成比	累計予算	増減額	前期実績	増減額
(入院収益)	3,861	55.1%	3,933	▲72	3,981	▲120
(外来収益)	2,098	30.0%	2,144	▲46	2,155	▲57
【医業収益】	6,255	89.3%	6,372	▲117	6,414	▲159
【介護収益】	747	10.7%	719	28	726	21
〔事業収益〕	7,004	100.0%	7,093	▲89	7,142	▲138
【人 件 費】	4,492	64.1%	4,460	32	4,362	130
【材 料 費】	1,189	17.0%	1,267	▲78	1,298	▲109
【経 費】	928	13.2%	907	21	938	▲10
【リース料】	106	1.5%	108	▲2	107	▲1
【減価償却費】	380	5.4%	380	0	371	9
〔事業費用〕	7,095	101.3%	7,122	▲27	7,076	19
〔事業利益〕	▲91	－1.3%	▲29	▲62	65	▲156
【事業外収益】	50	0.7%	45	5	49	1
【事業外費用】	51	0.7%	50	1	62	▲11
【経常利益】	▲92	－1.3%	▲34	▲58	18	▲110
【特別利益】		0.0%	0	0	16	▲16
【特別損失】	17	0.2%	0	17	82	▲65
〔当期利益〕	▲109	－1.6%	▲34	▲75	▲14	▲95

各地域で大盛況!!

第21回 大崎健康福祉友の会古川支部



和太鼓「道」の勇壮な太鼓

古川民主病院駐車場で開催しました。松浦名誉院長の「いきいき健康長寿」は地域訪問した詳しいデータなどわかりやすい話でした。職員が意欲的に取り組んだ病院見学会や高校生のヒップホップダンスも好評でした。

9月28日 850名

第3回 大崎健康福祉友の会遠田支部



合計160才の花婿花嫁行列

演芸は地元の人たちが96人が発表。防災と応急処置の話は笑いを誘い楽しくためになる話でした。特に、合わせて160才の花婿花嫁行列は拍手喝采でした。

10月12日 450名

第11回 くりはら健康福祉友の会



「震災を乗り越えがんばろう栗原」がテーマ

「防災について」消防署警防課長の金野平さんが講演。子どもたちの「よさこい踊り」はじめ「神楽」「マンドリンとギター演奏」と続き、初めての骨密度測定は大好評。豚汁・かぼちゃはっと・おでんに舌つつみを打ち、みんなが復興に向け力強い希望を持ち心から楽しんだ健康まつりでした。この地域に秋の風物詩として根づいてきました。

10月26日 300名

第9回 大崎健康福祉友の会加美支部



講演する農業協同組合長の伊藤隆之さん

やくらい文化センターで開催され、加美よつば農業共同組合長の伊藤隆之さんが「農業と憲法9条を語る」というテーマで講演。町の祭りにもかかわらず、昨年を上回る参加者で、まつりが地域に根ざしていることを実感しました。

11月9日 500名

友の会健康まつり

第31回 坂総合病院友の会



ちんどん屋さんで会場は和やかに

「千賀の台太鼓」の勇壮な太鼓で開幕。健康チェックコーナーは医師のリレー健康相談はじめ、どこも行列。チビッコ広場は大人気。ハンドマッサージコーナーや手洗いチェック広場は大人気。模擬店ではいい香りが漂い、作品展示コーナーでも多くの方が見入っていました。チンドン屋さんの懐かしい音が会場を和やかにしてくれました。

10月5日 2700名

第7回 若林クリニック友の会



フレッシュなチアリーディングで開幕

沖野「クラップスチアリーダーズ」のチアリーディングで始まり、平尾所長が「肝臓の話」を。「親子ヨガ」「中国拳法」「創作舞蹈」「大正琴演奏」、仙台合唱団の「合唱&みんなで歌おう」。「抹茶コーナー」「フラワーアレンジメント」も好評。新鮮「産直市」。「手づくりおもちゃ、ぬり絵」。昼食は無料の激うま豚汁。お楽しみ抽選会の特賞は地元収穫の新米5kg。

10月5日 327名

第18回 長町病院友の会



青年職員があちこちでがんばりました

健康まつりに青年職員パワーが！大きく成功した要因に頼もしい青年職員の奮闘がありました。前日・当日の会場設営、総合司会、子供劇場の司会、わくわく医療探検隊のスタッフ、よさ来いソーラン踊り、寸劇、そして模擬店の売り子さんとして、笑顔で奮闘してくれました。後片付けも沢山の方の協力があり昨年よりも早く終了。

10月19日 1200名

第13回 泉病院友の会



脈々と引き継がれる伝統の「タミさん劇場」

泉の特徴は、職員有志の寸劇「タミさんが倒れた日」の上演です。寸劇主役は副院長！主演タミさんは長いこと院長の役でしたが現在、荒井副院長がその役を引き継いでいます。練習なしのぶっつけ本番が、何故か爆笑の嵐を呼びます。院長・副院長が寸劇の「主役」を務める泉病院の伝統は、今も脈々と受け継がれています。

10月12日 1300名



嫌われっ子

『デデ』のお話

坂総合病院 臨床心理士 金野 博

さわやか エッセイ



こんな物語です

「ある所に悪魔の子がいました。デデはいつも一人で森に遊びに来ています」と物語は始まります。怪我をしたデデをクリスマスという女の子が助け、仲良くなりますがクリスマスの人形たちはおもしろくありません。「あなたのせい、出て行って!」と追い出します。森にいるデデ

「dede」という世界に一冊の絵本。「友だちとうまくいかない。気持ちをうまく伝えられない」ため学校が嫌になる子どもが、繊細で柔らかな色使いと丁寧な綴った文章。中学校卒業記念の作品でした。それを惜しげもなく「ありがとうございました」の言葉と共に置いていったのです。



をクリスマスが見つめ、連れ戻し人形たちと遊びます。ところがクリスマスが突然倒れてしまいました。「僕のせいだよ」と泣きながら回復を願うデデ。神様はデデに「お前は悪魔の子、あの子から離れなければならぬぞ」との条件でクリスマスを助けます。クリスマスが目覚めるとデデはいません。

ある日クリスマスは一枚の写真を見つめます。「なつかしい気がするわ」。神様はデデとの思い出を消したのです。記憶を失ったクリスマスは神様にお願います。「お前とデデは住む世界が違うのだ」と言う神様に「そんなことはありません。私は人間の子、あの子は悪魔の子に。それだけのことで引き離すのですか!」と訴えます。そしてクリスマスが目を開けるとデ

デの姿がありました。二人は約束します。「ボクたちはずっと友だち、ずっと一緒にいましょう」。それは神様がくれた魔法の言葉でした。と物語は終わります。

デデと重なるCさん

「自分は悪魔の子」と自ら身を引くデデに時々学校へ行きたくなるCさんが重なりました。Cさんは物語を書きながら影であるデデと向き合い、神様の助力を得てクリスマス(学校・友だち)と再会したのでしよう。心の中に潜む悪魔といかに和解するか。デデを通じてCさんは「自分は悪魔の子」と正直に告白し「自分もイジメの側にまわったこともある」と「嫌いな子」について話します。もちろんイジメのことだけでなく、好きな子・学校のことなど話しました。

あなたは そのままでいいよ

卒業記念作品作成と並行して登校したCさんは友だちと交わり楽しんで学校生活を終

えました。面接という場で私はCさんに多くのことを教えられました。遅刻にイラつき、片付けに辟易したりと正直「疲れ」を感じたこともありました。私の「疲れ」は「こんなにも疲れているの」というCさんの訴えを引き受けたことからきているのだと思います。最終回にへなたはそのままでいいよと伝えたととき二人の間に「神様からの魔法の言葉」が交わされたのです。

◇ ◇ ◇
Cさんがデデや神様と出会い、クリスマスと再会した場所として「ここ」を選んでくれたことを感謝します。そして、魔法の本がここにあることを付記しておきます。

